

岩手県総合計画審議会 「人口」「ゆたかさ」合同部会 議事録

日時：平成26年1月17日（金）

13:00～14:30

場所：県庁4階 4-1 特別会議室

1 出席者

別紙出席者名簿のとおり（「人口」検討部会委員8名、「ゆたかさ」検討部会委員6名、事務局4名）。

なお、報道関係者3名（岩手日報、岩手日日新聞社、盛岡タイムス）が傍聴。一般県民の傍聴はなし。

2 内容

(1) 提言書（案）について

資料に基づき、事務局から内容を説明

○ 谷藤委員

- ・「4 施策の方向性」の部分がいわゆる提言に当たるという構成の説明があった方がいい。そうでないと、「5 その他参考資料」にある各検討部会からの意見がメインであると誤解される可能性がある。
- ・8 pの「3 主な社会経済状況の変化の動向」の「(3) ICTの進歩」のところに、「人工知能を搭載したロボット」などの内容も入れていただきたい。
- ・18 pの「想定される取組の例」の2(3)が「人材育成」となっているが、2(2)も「専門人材の育成」となっているので、「人材育成」に修飾語をつけて違う趣旨であることが分かるようにした方がよい。
- ・「身の丈起業」についての記載が抜けているので、入れた方がよい。
- ・25 pの「想定される取組の例」の「定住自立圏の推進」について、唐突な印象を受ける。ここに書かれている内容を演繹して進めていくとこういう話になっても不思議ではないので、違和感はないが、これまでの検討部会では、ここまで踏み込んだ話はしていない。なぜこれが出てきたのかを説明してほしい。

○ 事務局

- ・「人口」検討部会での議論において、「コンパクトシティ」の話が出たため、その考えについても提言（案）に記載したが、総務省が「定住自立圏」に関する施策を進めていることもあり、具体的な取組例としてこれを書き加えた。

○ 浅沼委員

- ・「人口」検討部会での議論において「コンパクトシティ」の話が出たが、この言葉については、様々な捉え方があるし、市町村にとって微妙な内容も含むので、あまり大きく使っていない方がよいということで、提言（案）には「定住自立圏」を書き加えたという経緯がある。ご指摘のとおり、「定住自立圏」がこれまでに実際に議論されたわけではない。

○ 谷藤委員

- ・今のままだと、検討部会で「定住自立圏」について議論がなされたと受け取られかねない。説明いただいた経緯からすれば、総務省がこうした施策を行っていることに触れるという記載の仕方にすればいいのではないか。

○ 事務局

- ・「想定される取組の例」については、あくまでも現時点における例示であるので、両検討部会長とも相談しながら、これから内容のブラッシュアップをしていきたい。

○ 菊田委員

- ・今日、滝沢市長にお会いした際、市長は、「滝沢市は若い人たちが多いが、結婚しない男女が増えてきているので、今後のことを考えると少子化が心配である。」「昔でいう『おせっかいおばさん』がいるような地域が大切である。」などとおっしゃっていた。確かにそのとおりだと思う。
- ・23 pの「イ 日本一子育てしやすい地域をつくる」に「未婚男女の出会いの場の創出」との記載があるが、結婚年齢が高ければ高いほど、産む子どもの数が少なることは事実であるので、若い男女が出会い、結婚できるという意味合いを入れるべきではないか。
- ・24 pの「ウ 多様な主体の参画によるみんなで支えあう地域づくり」に「NPOなどの基盤強化」との記載があるため、NPO活動を行っている立場から発言させてもらおうと、NPOの資金調達は非常に難しいというのが現状であるが、認定NPOになると首都圏の企業等の信用が全く違ってくる。そのため、認定NPOになるための支援・指導を県にはお願いしたい。NPOと民間企業との協働を考えるのであれば、認定NPO制度の利用が必要である。
- ・25 pの「エ 未来を見据えたまちづくりと地域を結ぶインフラ整備」に「地域内や地域と地域を結ぶ交通インフラ整備」との記載があるが、沿岸市町村といっしょに活動をしていると、横軸道路だけでは駄目だと感じる。沿岸の市町村が縦に繋がり、人やモノの交流がなされるようになることが望ましいと思う。

○ 高橋委員

- ・「4 施策の方向性」の前に、人口減少や所得に関してのデータを表などで分かりやすく分析したものがあつた方がよい。そして、その中には、人口減少の原因や「ゆたかさ」を感じられない要因等を整理したものを入れてほしい。
- ・人口の多寡とゆたかさの間には相関関係はないと思う。人口は地域格差と世代間格差を生む要因ではあるが、富の配分さえうまくいけば、人口の少なさは問題ないのではないか。そうしたことも踏まえたうえで、「人口」と「ゆたかさ」のそれぞれを視点にした場合の違いを整理したような記載があれば、「4 施策の方向性」の内容がスッと頭に入ってくるようになると思う。

○ 浅沼委員

- ・各検討部会に与えられたテーマとの関連を明確にしないまま提言（案）が統合されてしまったので、そこは整理が必要だと思う。
- ・谷藤委員の発言も含め、全体の流れがスムーズに読み手に伝わるような流れを検討しなければ

ならない。

○ 藤井委員

- ・前回の提言（案）に比べ、格段に内容が良くなったと思う。
- ・メインの「4 施策の方向性」に至るまでの流れが重すぎ、読む人がうんざりしてしまうと思う。「4 施策の方向性」の内容を伝えることが大切なので、「2 現状分析」と「3 主な社会経済状況の変化の動向」の部分を工夫する必要がある。
- ・冒頭にポイントを示し、「提言の基本的な考え」、「想定される取組の例」、「検討部会の主な意見」と続ける「4 施策の方向性」の構成は非常に良いと思う。
- ・ただ、「想定される取組の例」については、県民に分かりやすくするという観点から、あった方が良いとは思うものの、検討部会における議論の内容と離れたものもあるので、精査が必要である。
- ・14pの「ウ 多様な人たちが能力を発揮できる地域づくり」に「様々な活動の核となるキーマン」とあるが、男女共同の観点からは、「キーパーソン」の方が良いと思う。

○ 浅沼委員

- ・各委員がおっしゃったように、提言（案）は全体の構成が分かりにくい。「2 現状分析」と「3 主な社会経済状況の変化の動向」の代わりに、谷藤委員や高橋委員がおっしゃった内容を入れて流れが分かるようにして、「4 施策の方向性」につなげれば良いのではないかと。

○ 高橋委員

- ・「2 現状分析」と「3 主な社会経済状況の変化の動向」の内容は、最後の参考資料でいいのではないかと。
- ・「4 施策の方向性」の前に要因分析と経緯が簡単に入っているだけの方が、読み手にとっては分かりやすいと思う。

○ 谷藤委員

- ・「4 施策の方向性」の前には、現状分析により出てきた課題を整理したもののみを記載し、その課題の裏付けとなる根拠は参考資料とした方が分かりやすいと思う。

○ 浅沼委員

- ・「4 施策の方向性」の前に、審議の経過やねらい、課題を簡単に記載し、それらに関する資料は、最後の参考資料としてつけるように、全体の構成を組み直すこととしたい。

○ 米澤委員

- ・22pの「想定される取組の例」の「(2)健康診断支援」に「集中健診期間」「健診巡回車バスの運行」との記載があるが、これは検討部会の議論で出ていたか。

○ 事務局

- ・当該内容は、検討部会の中で出てきたものではなく、県庁内におけるワーキンググループにお

いて、担当部署から出てきた意見を記載したものである。

○ 米澤委員

- ・「集中健診期間を設定」との内容が不明である。
- ・また、被災地では健診会場が確保できないので、各市町村が大きな会場への送迎バスを出したりしているが、「健診巡回車バス」とはそのことを言っているのか。

○ 事務局

- ・「健診巡回車バス」は、健康診断の受診率を上げるために被災地に限らず各地域に巡回車バスを走らせてはどうかというアイデアである。「集中健診期間」についても、同様の趣旨のアイデアである。

○ 米澤委員

- ・健診受診率の低さは問題になっているので、「健診受診率の向上」を項目として取り上げた方がいいと思う。受診率の向上のために、受診率が7～8割と高い欧米を見習い、学校で健康診断についての教育を行うべきだという議論もあることから、そうした内容についても盛り込むとよい。
- ・また、精密検査の対象者がなかなか病院に行かないという問題もある。特に仕事をしている人達の受診率が低いので、職域連携が入っていることは良いと思う。

○ 佐々木委員

- ・22pの「想定される取組の例」に「医療費や介護サービス費の抑制」との記載があるが、単に抑制するというだけでは、本末転倒である。「効率性の向上による抑制」といったような表現にすべきである。

○ 榎屋委員

- ・12pの「想定される取組の例」に「三陸ジオパーク」の記載があるが、「みちのく潮風トレイル」などの取組もあるので、一つだけではなく、色々な展開例を盛り込んでほしい。
- ・提言（案）とは直接関係ないが、岩手県民計画の中に人口の目標値についての記載はあるか。

○ 事務局

- ・長期ビジョンでは、人口推計を示しているものの、それは目標ではなく参考値としての記載である。

○ 榎屋委員

- ・全国の団体の中には、目標値を定めているところもある。

○ 浅沼委員

- ・「人口」検討部会での議論では、岩手の人口は将来的には100万人を切るという推計にも触れてきたが、目標値は提言（案）には入れていない。

- ・提言（案）は、30年後位を見据えながら10年以内に行う取組としてまとめている。
- 森奥委員
- ・2年間かけて議論してきた各検討部会の提言を参考資料として他の資料と一緒にすることには疑問がある。
 - ・各検討部会での議論が元になって統一提言となったわけであるから、提言書を2部構成にして、各検討部会からの報告書は第2部の中で示せばよいのではないか。
 - ・14pの「ウ 多様な人たちが能力を発揮できる地域づくり」に「若者、よそ者、バカ者」との記載があるが、これは、地域に元々いる若者のことなのか、それともUターン・Iターンした人のことなのか。そのあたりのことがよく分からない。
 - ・また、冒頭に「1 はじめに」があるので、末尾には「おわりに」を設けた方がよいと思う。
- 事務局
- ・「若者、よそ者、バカ者」は、地域づくりの担い手として言及される表現を借用したもののだが、重視したいのは若者であり、地域に元々いる人であるか、U・Iターンした人であるかを問わず、その活躍を支援していく必要があるという趣旨で記載した。
- 浅沼委員
- ・「おわりに」を設けるか否かについては、これから検討したい。
 - ・各検討部会からの報告については参考資料より前に持ってきて、提言書を取りまとめた経緯が分かるようにしたい。
- 工藤委員
- ・18pの「想定される取組の例」に「産学官金がそれぞれの資金を持ち寄った支援センターを構築」との記載があるが、岩手県には既に「産業支援センター」や「工業技術センター」があるので、それらを活用していくという表現にした方がよいのではないか。
- 高橋委員
- ・地域の学力と地域の経済力・活力の間には相関関係があると思うが、提言（案）にはその部分の記載が抜けていることが気になる。
- 藤井委員
- ・「ゆたかさ」検討部会では学力テストについて、隣県秋田がトップクラスなのに岩手県が低いのはどうしてなのか、社会経済状況は変わりがないのに、教育の違いが出て来るのはなぜなのかといったことが話題になった。このことを提言の中に具体的な項目として盛り込むべきかどうかについては、検討しなければならない。
- 山田委員
- ・教育に関する部分については、表現を考えなければならない。学力と経済との関わりに関する問題ということではよろしいか。

○ 高橋委員

- ・「(2) 強くしなやかな『いわて』の経済システムをつくる」の所が関係するのかなと思いつながら提言(案)を見たが、載せられていない。システムと言っているからここには載らないのかもしれないが。

○ 山田委員

- ・人づくりという文脈での議論だったと理解しているが、ここをどのように入れるかについては考えさせていただきたい。

○ 千田委員

- ・私も同じことを思っていた。人材育成や教育に関する内容は、18pの中小企業支援に関する人材育成しかなく、企業における人材育成や連携についての内容が中心だが、個人的には、工業高校や専門学校などの教育現場での先生方がものづくりを知っていないと感じている。
- ・インターンシップに関しては、19pの「検討部会の主な意見」の中に記載があるが、学生の指導に重きを置いたものになっている。学校の教育現場に少し踏み込んだ提言というのは難しいのかもしれないし、言い方が合っているかどうか分からないが、例えば、先生のインターンシップなど、先生を教育するということがあってもよいと思う。
- ・また、学校教育の前に家庭での教育がどんどん低下しているようにも感じる。基本的な挨拶や人に対して感謝するといったことなど、家庭で親御さんが子どもに教えなければならないことまで企業に求められているところがあるため、学校教育の現場から家庭での教育に対して何か踏み込んだ提言があれば良いのかとも思う。

○ 山田委員

- ・各委員のご意見はそのとおりでと思うので、どこに入れさせていただくか検討させていただきたい。新たな項目を立てることは難しいと思うので、どこかにもう少し盛り込むということで検討させていただければありがたい。

○ 浅沼委員

- ・教育については、実際に検討もされてきたものの、提言(案)には記載されていないので、うまく反映させるべきだと思う。各委員もそのことに反対はないと思うが、どこにどのように入れるかが問題である。「(2) 強くしなやかな『いわて』の経済システムをつくる」の中に入れるべきか、「(3) お互いを認め合い、支え合う『いわて』をつくる」にも関わってくるのではないか、それとも全体に関わってくるのか。このことに関してご意見をいただきたい。

○ 谷藤委員

- ・人材育成というと一定以上の年齢の人たちというイメージだが、今ここで話題になっている教育というと、義務教育レベルからもう少し上の年齢当たりの話だと思う。そうすると、23pの子育ての話に入れてもよいと思う。
- ・昔は、「読み書きそろばん」など基礎的な技能とか教養の標準的なものが割と端的な言葉で表現されていたが、変化のスピードが速い今の世の中でどういう能力・学力が必要なのかという

ことについて議論をしなければならない。これは非常に大きな問題であり、私を含めておそらく誰も明確な答えを出せないと思うが、そのような問題意識をどこかに滲ませることは必要だと思う。

○ 米澤委員

- PTA としても教育の問題について県をはじめ各市町村でも取り組んでおり、子どもの教育の前に親の教育が必要だという認識も持っている。そのため、家庭教育セミナーを毎年色々な場所で開催したり、親はどうあるべきかといったテーマの勉強会や子どもに対する勉強会も積極的に行っている。
- 学力について、隣の秋田が高く岩手が低いという話も色々な所に出ており、毎回のように議論しているが、答えはなかなか見つからない。こうしたことは非常に難しいこともあり、今まで言っていなかったが、提言（案）に入れるとすれば 23 p の「イ 日本一子育てしやすい地域をつくる」の所になると思う。
- 地域で子どもを育成するということもよく言われている。岩手では、昭和 40 年から教育振興運動が行われており、「学校・親・子ども・地域みんなで教育しましょう」という全国でも類を見ない素晴らしい取組が各地区で続いている。その中では、伝統芸能の伝承なども積極的に行われているし、PTA としても取組を行っている。そうしたことを 23 p に盛り込んでもらえれば良いと思う。

○ 早野委員

- 検討部会での議論においては、子育てに希望を持てる教育を実施すべきとの考えもあったので、教育に関する部分は 23 p に入れていただくのが良いと思う。人材育成は企業支援の中に盛り込めばよいと思う。
- 教育に関しては、机の上の学力の向上も、地域で文化に触れることにより人格を形成することも必要だと思う。

○ 吉田委員

- 私も岩手に Uターンした人間の一人だが、そうした立場で提言（案）を見ると、岩手に戻りたいなと思えるような書き方や例示がもう少し入っている方がよいと思う。検討部会では、二地域居住といった観光と定住の間にあるような暮らし方や交流人口のあり方についても議論していたので、それらもどこかに入れてほしいし、18 p の「想定される取組の例」に「(5) 起業支援」との記載があるが、議論のあった収入源の多様化なども別に例示として入れてほしい。こうしたことが、Uターンしようとしている人には大事であると思う。
- 21 p の「想定される取組の例」に「里山再生エネルギーの活用」とあるが、こうしたことは製材業と切っても切り離せない関係にあるので、「製材業に力を入れます。」などと県が言ってくると、都会に暮らしている人に「戻りたい。」「戻っても仕事がある。」などと思ってもらえると思う。
- 今述べたようなことを付け足してもらえると、希望を持って岩手に帰って来られると思う。

○ 浅沼委員

- ・吉田委員の意見は盛り込んでいただきたい。
- ・先ほどの教育については、23pにとのご意見が多かったが、個人的には、「(2) 強くしなやかな『いわて』の経済システムをつくる」の所でも良いと思う。両方に上手く入れられればよいが、学力の問題なのか教育システムの問題なのか悩む部分もあり、今ここで詰められないので、預からせてもらいたい。

○ 事務局

- ・教育に関して出たご意見について確認をさせていただくが、いわゆる「しつけ」の問題、「しつけ」をする親の問題という大事な指摘があり、そういった「しつけ」レベルの教育環境の整備がまず一つ。
- ・また、魅力ある岩手づくりのために、岩手の子どもたちの学力向上にもしっかりと取り組むということがもう一つ。
- ・それから、インターンシップ等の話もあったが、産業界レベルで求める人材育成のための教育環境の整備と教育内容の充実という内容もあった。
- ・さらに、ふるさとを愛し、ふるさとを大事にし、ふるさとの伝統を継承していくといった、子どもたちの生涯学習にまで繋がるような「ふるさと教育」という視点もある。
- ・これらをそれぞれどこかに散りばめればよいのか、あるいはまとめた方がよいのかという議論もあるかもしれない。

○ 藤井委員

- ・「しつけ」を含む内容は、23pに記載されている「日本一子育てしやすい地域」や「社会全体で子育てを支援」ということと関連する。
- ・人材育成ということでは、17pの「付加価値を高める」ということと関連する。
- ・10月の藻谷浩介さんの講演で取り上げられていた簿外資産や子どもの価値、マンパワー・ソフトパワーの価値などということを考えると、13pに記載されている「伝統・文化の次世代への継承」や「次世代の担い手育成」などに関連すると思う。伝統文化のみならず、資源、岩手を伝えるの3カ所に入ってくるので、見えにくくなってしまうかもしれないが。

○ 山田委員

- ・10pの「施策に共通する考え」に「③人材の育成と活用。『人』が最大の財産（子どもは社会の宝）」との記載があるが、これは「ゆたかさ」検討部会の議論で大きなポイントとなっていた「人づくり」とも関わってくる内容であると思う。ただ、今日の皆さんのご意見を踏まえると、ここに今お話に出てきた教育に関わる点を入れなくていいのかとも思うし、もう少し広い意味合いで捉えると、色々な所に散りばめられる気もする。そう考えると、「施策に共通する考え」の③は「人材」とは違う言い方も考えられるが、この点もご意見があれば伺いたい。

○ 浅沼委員

- ・この部分は提言全体に共通する考えなので、広い方がいいとも思うが、教育という言葉がここに入るのは少し違うのではないかと思う。全体に通じる「人」というテーマをどのように認識

するかという問題だと思うが、人材育成という言葉は一般に使われているので、個人的には違和感を感じない。

○ 工藤委員

- ・「人材育成」というと、企業のイメージなので、子ども達を育てるという意味合いからは離れてしまう気がする。「人材」の「材」は取っていいのではないか。

○ 藤井委員

- ・「人づくり」でいいのではないか。「人材」というと、「ものづくり人材」などといったように、頭に形容詞がつくイメージがある。

○ 事務局

- ・「人づくりと活躍の促進・支援」といった表現ではどうか。一人ひとりが主体的に動いてほしいという趣旨が入ればよいと思う。

○ 山田委員

- ・「ゆたかさ」検討部会でも、地域でどのように生きていくかという課題意識が出ていたので、主体的にということと、それを支えていくというニュアンスが出てくればよいと思う。

○ 浅沼委員

- ・「人づくり」と何かということで括った後に「人が最大の財産」と続けばよい。今のところ2つの表現が出たが、他にいい表現はないか。
- ・この場ではこれ以上は出ないようなので、この部分については預からせてもらいたい。

○ 谷藤委員

- ・先ほど教育に関する視点を事務局にまとめていただいたが、ここで考えるべきことは、既存の学力テストでいい点を取るということではなく、これから変化していく世の中を乗り切っていくための力を身に付けさせるということであり、そういう観点の記載を何かしら入れていただきたい。

○ 菊田委員

- ・それはまさに「人間力」ということだと思う。

○ 高橋委員

- ・「学力」とは「学ぶ力」であるということを最初に言っておくと、後で使いやすいと思う。

○ 浅沼委員

- ・教育の位置づけに関しては、先ほど藤井委員がおっしゃった通りだと思う。教育については、どこかで大きく取り上げてまとめるということではなく、関連する所に散りばめればよいのではないか。

○ 吉田委員

- ・「人間力」に関連するかもしれないが、「ふるさと教育」の所に「防災学習」も入れてほしい。岩手にいる以上は、防災について学ぶことにより「人間力」が向上すると思うので、ぜひ入れてほしい。

○ 浅沼委員

- ・取組例については、あくまで例示であるので全てを盛り込むわけにはいかないが、できるだけ入れさせてもらう。
- ・各委員からいただいたご意見を踏まえた最終案は、いつごろ作られる予定か。

○ 事務局

- ・提言書は2月13日の総合計画審議会において提出されることになっているので、各委員に確認いただいたうえ、今月中にまとめなければ、間に合わなくなってしまう。

○ 藤井委員

- ・3つの柱の下に項目がいくつかあり、それぞれに「提言の基本的な考え」があるという構成については、各委員とも異論はないと思うし、「検討部会の主な意見」の部分はこれまでの実績なので変わりようがないが、「想定される取組の例」については、今後、取組例1、取組例2、取組例3と増える可能性があるということによいか。

○ 浅沼委員

- ・「想定される取組の例」については、若干増えるくらいにしたい。

○ 藤井委員

- ・最終案はいつごろ見せていただけるのか。

○ 事務局

- ・来週には修正内容を確認いただき、1月末には成案作りに入りたい。そうしてできた成案は、総合計画審議会の1週間前の2月初めにはお示ししたい。

○ 浅沼委員

- ・最終確認後の作業は両検討部会長と事務局に一任するということをお願いしたい。

(2) その他

特になし